

暑い夏を締めくくる地獄絵巻

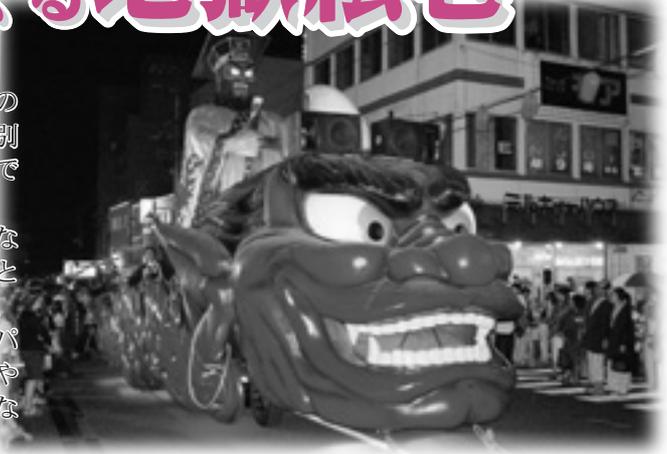
～第41回登別地獄まつり～

8月28日(土)・29日(日)の2日間、登別温泉街で登別の夏を締めくくる『第41回登別地獄まつり』(市、登別観光協会主催)が開かれ、大勢の観光客や家族連れでにぎわいました。

今年からまつりの期間が1日短縮されて2日間になりましたが、より多くの市民に足を運んでもらおうと日中の催しを充実。28日は、テープカットに続いて、登別温泉小学校児童のオニッコマーチングバンドのパレードで開幕し、『エンマ大王からくり山車』運行や昨年も好評だった『足湯体験』、フリーマーケットなどが行われました。

夜には、地元の若者120人が重さ1トンの赤鬼みこしを担いで極楽通りを練り歩く『鬼みこし暴れねりこみ』で景気付き、地獄ばやしにのって鬼面をつけた観光客と市民が一緒になって踊る『鬼踊り大群舞』で、まつりは最高潮になりました。ハイライトを飾ったのは、日中に続いて登場した『エンマ大王からくり山車』。エンマ大王が憤怒の形相で地獄の審判を下すと、極楽通りを埋めた観光客や市民から歓声が上がっていました。

今年のまつりでは、奇抜なファッションが楽しい『仮装鬼踊りコンテスト』や市内の医療機関の看護師による『女みこし』、深夜に暗闇の地獄谷周辺を歩く『肝だめし・運だめし?』が行われ、29日夜の3年ぶりに復活した花火大会でフィナーレを迎えました。



▲エンマ大王からくり山車



▲足湯体験

職業選択の参考にします ～高校生インターンシップ事業～



▲保育士を体験する高校生(栄町保育所)

高校生のインターンシップ(就業体験)事業は、高校生に就業体験を通して自らの適正などを理解し、将来の職業選択に役立ててもらおうとともに、地元企業への理解や関心を深めてもらい、若者の地元定着を促進しようと、『登別市パートナーシップ推進会議』(市、経済・業種団体などで構成)が昨年からは実施しています。

今年は、市内の高校2年生57人が参加し、9月14日(火)から11月上旬にかけて市役所や医療機関、郵便局、ホテルなど地元企業を中心に17社で就業体験を行います。

ふるさとの湯は最高!

～登別温泉入浴体験事業～

9月1日(火)から、市内9小学校の3年生を対象に『登別温泉入浴体験事業』が行われました。

この事業は、社会科授業の一環として、市の基幹産業である観光への理解を深めることを目的に行われ、今年は452人の児童が学習に登別温泉町を訪れました。

地獄谷などの観光資源について学んだ後、児童はホテル・旅館を訪れ担当者から温泉について説明を受け浴場へ。露天風呂では、みな満足げに『気持ちいい』などの声を上げ、歩き回ったり、打たせ湯を楽しんだり、温泉入浴を満喫していました。

